

酒々井町郷土研究会々報

第77号

平成7年7月1日発行
酒々井町郷土研究会
庶務部

日本の神々の系図 (三)

会田秀雄

『日本書紀』編修の起りは、『紀』の天武天皇十年三月の条に「天皇は、大極殿に詔をもつて川島皇子外十二名の貴顕を集めて帝紀及び上古諸事を記定せしめた」とあります。しかし、これも天皇存命中には完成をみませんでした。この事業は、その後引き継がれ、朝廷がまとめた「帝紀」や「旧辞」だけではなく、氏族や地方に伝わる物語、朝廷の記録、個人の記録や覚え書、さらに外国の資料、例えば「魏志倭人伝」などの多くの資料が用いられるようになりました。こうして元正天皇の養老四年(七三〇)に一品舎人親王(天武天皇の皇子)を中心に『日本書紀』がまとめられ完成されました。これは三〇巻からなり、第一巻の神代(上)から

第三十巻の持統天皇までの神話や伝承を含んだ歴史書で、中国の歴史書をまねた形をとり、編年体の漢文で書かれています。

『日本書紀』では、取り入れられた多くの資料が、本文のあとに「一書に曰く」「一に言わく」と一説には「として載せられています。ここの部分は、本文の内容と似ているもの、違っているものなどいろいろですが、特に「神代の巻」にたくさん「一書」が見られます。この点が、筋の通った練まりのある『古事記』と大きく違っているところ

です。個々の記述についても『古事記』と『日本書紀』は、中心になる資料としてともに「帝紀」と「旧辞」を使用しているのですから、内容の似通っているのは当然ですが、違う点も少なくありません。一例を挙げると、神代において『古事記』の宇宙の初めでは、天之御中主神、次に高

御産巢日神、次に神御産巢日神の三柱の神々が出現されたとなつています。しかし『日本書紀』では初めに国常立尊、次に国狭槌尊、次に豊斟渟尊の三柱の神々となつていて、処々に違いがみられます。ここで『古事記』の神々の出現順序を『日本書紀』と付き合わせて記してみます。

- ① 天之御中主神 ② 高御産巢日神 ③ 神産巢日神 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

とあるのは夫婦、兄弟、他人の別なく、男と女を区別するとき女性に添える接頭語で、男に添える語は背である。この二神は脂のように漂うもの、うちから潮と土とに次第に分かたれて、ようやく砂や泥を混じえた沼と

なつたことを示している。⑨ 角状神 ⑩ 活状神 この二神は沼地の泥が次第に固まり、角のように春芽が芽びいて育つていくことを示している。⑪ 意富斗能地神 ⑫ 大斗乃弁神 この二神は広やかな大地がここに固まったことを示している。このことを神格化したものである。

⑬ 於母陀流神 ⑭ 阿夜訶志古泥神、この二柱の神は『日本書紀』では、面足尊、惶根尊と書かれていて、男神は大地の表が不足なくととのったことを示し、女神はこのときに「あやにかしこし」とあげた悦びの声を神格化したものである。(次号に続く)



中山、鬼越方面見学

川上 孝

現職中は、通勤途中であった
 駅「京成中山」。「鬼越」も見学の
 ため下車して初めて知る。定年
 になって早八^は年、見学のため初
 めて中山法華経寺の山門をくぐ
 る。奥に聳える五重の塔、六百
 余年の四足門や奥の院等を見学
 する。歴史と言うものは文面の
 みで無く、そこに実在する価値
 観、即ち、見る、触る、感觸
 を直感して歴史の重さを知るの
 ではないだろうか。テレビで、
 途中下車^をを見る事があるが、
 途中下車することにより発見す
 ることが出来るのであって、通
 過してしまつては其処に何があ
 り、何んであるかを知ることが
 出来ない。見ることは知ること
 であり、日常生活に於いても業
 外身近な所にあるものを見逃し
 ているのかも知れない。私も郷
 土研に入会し、会長さんを始め
 役員さんの御苦勞を感じ知る事
 が出来た。

午後は県立現代産業科学館で

強いインパクトを感じた。スベ
 ースシャトルで宇宙に飛び立つ
 映画では、特殊なスクリーンで
 恰も自分がスペースシャトルの
 乗組員のような錯覚を起してし
 まうほど迫力のある経験をした。

町内史跡めぐり

ハイキングに参加して

坂田 愛子

午後から雨との天気予報を、
 ちよつと気にしながらお弁当を
 作り、リュックに傘を入れて、
 集合地の京成酒々井駅へ。友達
 と共に初めての参加です。会報
 の案内によれば酒々井は成田街
 道の宿場で芝山道、多古道など
 の分岐点であり、岩名の仁王道
 も中川の地から分かれていたそ
 うです。

中川にある、ニ王ミちノ道標
 より出発して佐倉市の岩名仁王
 尊まで高橋先生、会長さん達の
 大変詳しい説明を受けながら数
 多くの史跡を見聞する事が出来
 ました。住宅のすぐ隣にある水
 神社の道祖神に昨今の住宅事情
 を感じ、どんな味がしたのだろう

か、ちよつと気になる。延命水。
 山崎のひょうたん塚古墳からは
 何が出てくるのかなと想像した
 り、大地にしっかりと根を張る
 大樹のその根の太さや長さを目
 をみはり、力強き生命力に感嘆
 し、かれんに咲く野草の花に足
 を止め、心豊かな時間を持つこ
 とが出来ました。

歩き進むにつれて少々足の疲
 れを感じた頃、最終目的地の岩
 名の仁王さまに対面し、昼食場
 所の運動公園へ。芝生に腰をお
 ろし、足を延ばしての昼食は、
 おむすびのなんとおいしかった
 ことか。どんなごちそうよりも
 最高の味、楽しい楽しいハイキ
 ングでした。翌日は心配した筋
 肉痛も全くなしのこちらも最高
 でした。

まぼろしの
イヌフグリにときめく



四月二十四日に行われた植物
 観察会は、予想以上の参加者で
 自然及び植物への関心の深さが
 強く感じられた。

酒々井町周辺は、隣接する佐
 倉、成田両市の急速な都市化開
 発と異なり、何処を見ても緑の
 美しい風景が広がる。当日の業
 内役を指名された私は、微力な
 れど長年培ってきた事が少して
 も皆さんのお役に立てばとお引
 き受けをした。京成酒々井駅前
 より順天堂大学方面を観察しな
 がら歩いたが、殆どの草はどれ
 も見なれた種類ばかりだった。
 だが初歩の方にとっては、それな
 りの感懐をもたれたようである。
 次に、今回の観察会で特筆すべ
 き草が二種あった。イヌフグリ(ジ
 まのは草科)、ヤマアゼスゲ(かや
 フリ草科)である。前種は花がピ
 ンクで、私が此の世界に魅かれて
 から二〇年経つが二度見だけに
 それ程珍草と言える。二回一本だ
 けであった。ヤマアゼスゲは、初
 めての出会いなので同定(動植物の
 分類・所属を決定すること)致し難く、
 恩師の教示を受けた。佐倉在住の
 恩師も、栃木県では見たが、佐倉近
 辺では観察不可とのお話であった。
 以上、酒々井には、これからも
 嬉しい出会いが期待できそうだ。

亀井 香久乃

老神温泉・榛名湖

一泊の旅

執行 正勝

会田会長以下、四七名が和氣
舘々と事故もなく無事旅するこ
とができた。内容が盛り沢山で
計画され、旅心を堪能させられ
た。

新緑あざやかないろは坂を上
るとひんやりとした、華嚴の滝に
着く。今年は雨が多く流水が豊
富であった。今日の第一の目的
地の立木観音には、大黒堂、五大堂
等があり、本尊の千手観音は勝
道上人が自らカツラの立木に斧
一丁で彫って造ったもの。木の
根っ子はいまだ地下にあるので、
本尊は移動できない為、覆屋が
造られたとの説がある。

竜頭の滝は、華嚴の滝とは対
称的で緩やかな斜面の流れがあ
り、遊歩道にはヤシオツツジが
満開で歓迎してくれた。

戦場ヶ原を抜け、白樺やミズ
ナラの林を通り、湯の湖を左に
見ながら金精峠トンネルを越
える。白根魚池は和風の庭園と
マス、ヤマメの池が中心となっ

まもなく榛名神社に着く。古社
の境内はうっそうと茂る古杉、
老木が繁り、所々奇岩が乱立して
風致に富んでいる。本殿の上部
にそそり立つ巨岩、御姿岩を見
ると鳥肌がたってきた。帰る
車内では皆で、湖畔の宿を繰



泉をかこんで一休み
くんでもつけない泉のように
よもやまばなしが つづきます。
どうぞあなたもお仲間

ていた。老神温泉朝日ホテルで
一泊。翌朝、ホテル外の朝市に
行く。山菜を中心に安く新鮮
な品ばかりである。さあ、今日
も良い天気だ。吹割溪及び吹割
の滝を見学して榛名湖へと向か
う。途中のドライブコースで日
光のいろは坂と
大差のない程く
ねくねしに坂道
の両側には、レ
ンゲツツジが花
盛りであった。
また湖畔ではハ
重桜が満開で迎
えてくれる。

り返し合唱した。

追記

金精神社の社殿前にあった木は、
亀井さんが帰宅後調べられたこと
ろ、かえて科ノミツデカエデの
雄木ということが判かりました。
(編集子)

銚子への
ぶらり旅行

上野和子



五月末の青あらしの吹くある
日、総武本線・銚子電鉄に乗っ
て太平洋を見に行きました。
海の近くに住んでいた小学生
の頃、日暮れまで海辺にたわむ
れた記憶があり、海には格別の
思いがあります。

一〇年程前に見た厚田村、石狩、
積丹などの海は鉛色でどんより
と雲が垂れこめており、たまら
なくさびしきを感じる海だった
ことを思い出しました。

犬吠埼灯台からの、黒潮が流
れる太平洋は水平線が丸く見え、
海に引き込まれそうになります。
その日の海は白浪をたてていま
したが荒々しきの中にもやはり明

会計報告

1泊見学会(老神温泉)
5/24~5/25 参加者 47名
(収入) 22500円 x 47 = 1,057,500円
(支出) 八御観光へ 258,258円
保険料 3,696円
ドライバ-ガイドお礼 13,891円
返金(1000円 x 47) 47,000円
追加支払 21,960円
コピー 450円
残金 12,865円 郷土研へ
山菜を食べる会
収入 700円 x 72 = 50,400円
町長祝儀他 6,200円
支出 材料費 54,264円
残金 2,336円 郷土研へ

郷土研日誌

月日	内容	参加者数
4.5	名勝探訪(中山・鬼越方面)	29名
4.24	野草観察の会(順大近辺)	44
5.14	町内史跡めぐり 若名仁王みちを歩く	47
5.16	運営委員会	22
5.18	山菜を食べる会	72
5.24~25	一泊見学会(老神温泉・榛名湖方面)	47
5.27	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひとま」(3)	21
6.21	名勝探訪(原宿・虎比寿方面)	28
6.24	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひとま」(4)	20
6.29	会報発送	25
	延参加者数	355

るく心をなごませてくれています。
南欧風の駅舎と一輛編成の電
車がメルヘンチックで昔風の素
朴な感じがする手描きの中づり
広告がある銚子電鉄に乗り、車
窓から見える一面のキャベツ畑
などに接し本当にのどかな一日
旅行でした。

郷土研行事業案内

平成7年7月~9月

	7月	8月	9月
史談会	22日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(5) 講師 高橋健一先生 ※ テキストを持参して下さい。	休 ミ (注) 9月から第1週(土)に変更します。	2日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(6) 講師 高橋健一先生 ※ テキストを持参して下さい。
名勝探訪	9月26日(火) 雨天代替 鎌ヶ谷方面 (コース変更することもあります)	28日(木) 京成酒々井駅 8:15 集合 京成酒々井 → 鎌ヶ谷大仏駅 → 鎌ヶ谷大仏 → 滝不動 → 御滝 不動 → 習志野 → 船橋市立郷土資料館 → 飯山満木食地蔵 → 前原駅 → 京成酒々井駅	
郷土史講座 (教育委員会共催)	8月20日(日) 午後1時30分開演 中央公民館 視聴覚室 演題 「酒々井と佐倉七牧」 講師 千葉県立中央博物館歴史学研究科 樋口誠太郎先生 多数のご来聴を歓迎いたします。		

郷土史講座案内

酒々井町史に見る(史料集三)佐倉牧

県立中央博物館歴史学研究科

樋口誠太郎

佐倉牧は佐倉七牧とも言われ、東北の山武・印旛・香取・千葉の四郡の広大な地域にまたがり、その面積は約一七五〇ヘクタール。酒々井町の約九倍の広さをもっていた。

町史編さん事業というものは、編さんのしごとをやっている時は関心を持たれるが終了してしまふとあまり関心を持たれなくなってしまうことが多い。そこで今回、町史・史料集三(佐倉牧関係二)を参考に、その中にある『島田家文書』の中の「野馬御用日記」(文化六年以降)の内容を見て佐倉牧のことを具体的にみていくことにした。島田家は牧士組頭で野馬会所の管理者でもあった。

島田家より発見された佐倉牧の御用日記は単に江戸の野馬役所と小金牧の綿貫夏右衛門と酒々井野馬会所の仕事上のことを記すだけではなく、当時存在した佐倉牧周辺一ニ〇ヶ村の農村の人びとの生活を具体的に広い分野に亘って記しているのが当時のことを知る良い史料である。

今回は『史料集三』の全てに亘つてと言うのは不可能であるが、代表的な部分をとりあげ、主として「馬と牧」、「牧と人びとの生活」を題材として話すことにしたいと考えている。



名勝探訪

9月26日(火)
(雨天) 9月28日(木)

鎌ヶ谷方面

新京成鎌ヶ谷大仏駅から一〇〇メートル程行くと、左側に延命寺の墓地があり、その一角に路坐の鎌ヶ谷大仏があります。再び電車に乗り滝不動駅へ。駅から歩いて一〇分で、御滝不動につきます。ここは自然公園で、市民の憩いの場となっております。桜の名所でもあるそうです。次に薬師台にある船橋市立郷土資料館に立ち寄り、飯山満の村の小さなお堂の高き二三メートルの木食地蔵にお目にかかって帰路につきます。

あとがき



梅の寒のみのりの多寡がとり沙汰され、漬け方も様々、どんな風にするのかな、と小耳を立てて人々の話を聞きつつ、我が家の梅は甘い甘いジュースに仕立てられました。

町から頂いた梅の苗木も十数を経年、花を愛でさせてもらい、実を楽しませてくれる木になりましたが、町内の家々も同じ思いで庭を眺めておられるのではないうでしょうか。近頃は日差しも延びて来て、そろそろ梅雨明けの時期になります。皆様健康にご留意の上、行事に参加されますよう。

